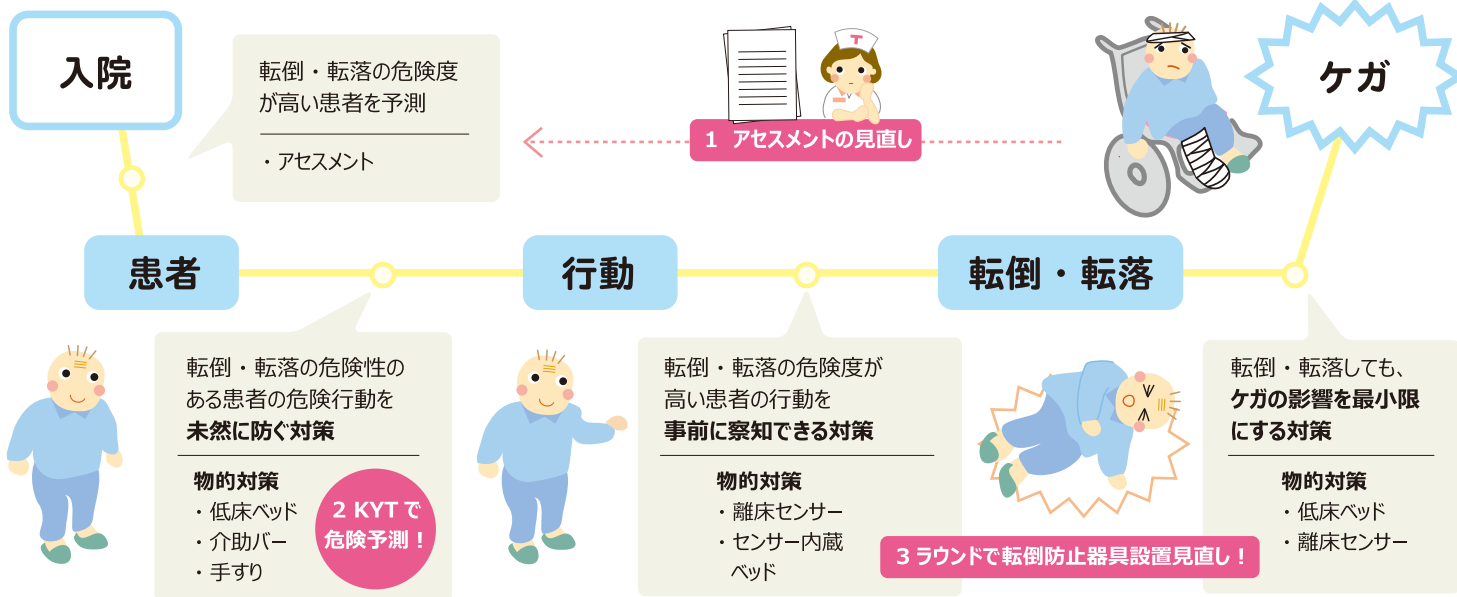




今月のテーマ 「病院の転倒対策はどうしている？ - 人的対策編 -」

転倒・転落事故を防止するためには、どんな対策がどのタイミングで有効なのか？今月号では転倒・転落事故発生までの患者の行動をまとめ、合わせて、リスクマネージャーインタビューでいただいた情報から、事故を防止するための「人的対策」をご紹介します！



1 『転倒・転落アセスメントスコアシートの見直し』

事故が報告されるとアセスメントスコアの検証・改善をしています！

転倒・転落事例報告書が提出されると、まずは各部署が評価したアセスメントスコアが患者様にとって適正だったかを改めて検証します。対策の立案・実施は各部署が中心となって行っていますが、その後、医療安全管理対策委員会でもラウンドを行い、物的対策・人的対策・環境整備などの詳細をチェックし、改善を繰り返しています。

社会医療法人春回会
井上病院
医療安全専従管理者
松嶋英二 様

3 『基本に戻る！ラウンドの定着』

転倒・転落予防ラウンドを基本活動とし、課題をスタッフと共有しています！

改めて転倒・転落予防ラウンドを基本活動とし、転倒防止器具の選択や設置場所等の指導をチームで介入しました。ラウンドを定着させることで、取り組みの重要性和課題をスタッフと共有して改善活動を行うことができました。転倒・転落の事故件数は現在減少傾向にあります。骨折率が低下するなどの成果が出ています（H28 年度下半年骨折率 1.5%）。現在も常に繰り返し対策を行い、未然防止・早期発見に努めています。

独立行政法人国立病院機構
豊橋医療センター
医療安全管理室 師長
平野理恵 様

2 『4つのワーキンググループ、病院全体で医療安全に取り組む活動！』

安全な医療を推進するため4つのワーキンググループで活動しています！

安全な医療を推進するための4つのワーキンググループがあり、多職種による組織横断的な活動を通して、病院全体で医療安全に取り組む風土を醸成しています。（療養ワーキンググループ・物品ワーキンググループ・与薬ワーキンググループ・DVT ワーキンググループ）特に転倒・転落に関しては、療養ワーキンググループで取り組んでおり、**巡視、ケーススタディーや KYT、1ヶ月分のインシデントに対して具体的な今後の対策**などを検討しています。

県立広島病院
副看護部長
専従医療安全管理者
品川恵己 様



安全情報の共有や注意喚起を目的に毎月テーマを変えて「Safety Management News」を作成し、全スタッフの目に届くようにスタッフステーションや、さまざまな場所に掲示しています。